

# テレビ会議システムを活用した地域をつなぐ小規模校での授業展開

— 小学5年社会科「高い土地の暮らし」での実践を通して —

高森東中学校（高森東学園） 教諭 鋤先 良浩

キーワード：自然環境と人々の暮らし，テレビ会議システム，学校間の合同学習

## 1. はじめに

本校は小学校が隣接しており、小中兼務辞令の下、平成26年度から中学校教員が小学校への乗り入れ授業を行っている。今年度は、小学校5・6年が複式学級となり、授業における複式解消のために社会科では、中学校教員が小学校5年生の授業を行っている。また、本町では、車で30分ほどかかる場所にある学校同士で、さまざまな授業においてテレビ会議システムを活用した遠隔交流授業の実証研究を行っている。

本実践は、小学5年生社会科において、「高い土地の暮らし」の中の「山地の暮らし」について取り組んだものである。小学校学習指導要領解説（社会）によると、この単元を通して、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを理解し、国土に対する愛情を育てることをねらいとしている。

本校区は、阿蘇外輪山の東縁に位置し、町の中心部にある交流校よりも標高が高く、波状傾斜地帯が広がっている。山の斜面を利用したくらしが多くあり、町の中心部とは生活実態が異なる部分もある。そこで、本校区のかくらしについて発信し、山地のかくらしについて双方で特色を捉えさせる授業を行った。山地に暮らしている本校の児童たちにとっては当たり前のことでも、同じ町内の平地に暮らしている児童たちからは、自分たちのかくらしと違うことも数多くある。地形条件とそこに暮らす人々の生活に目を向け、山地のかくらしの特色を今まで学習してきた他地域と比較しながらキャッチコピーで表現する学習に取り組んだ。

## 2. 実践のポイント

### (1) タブレット端末の活用

発表をした本校の児童には、事前に自分たちのかくらしの様子をタブレット端末で撮影させた。家がどんな場所に建っているのか、近くでどんな農作物が栽培されているのかなど今までの学習と自分たちとの生活を比べながらさまざまな写真を撮影してきた。教師が意図するものだけでなく、どんな情報を伝えたいのかを自分たちで考え、児童たちの視点を加えて資料収集を行うので、意欲をもって取り組むことができた。

### (2) テレビ会議システムの活用

同じ町内でありながら生活実態が異なることを遠隔地の学校（以下、交流校）にも知ってもらい、双方で山地のかくらしの特色を考えていくためにテレビ会議システムを利用した（図1）。テレビ会議システムで交流校とつなぎ、多様な意見や違いに触れることで、自分たちの考えをより一層深め、思考力や判断力、表現力の向上につなげることができる。

今回は、本校の児童が情報を整理した上で情報の発信を行い、どんなツールをどのように使えば相手によく伝わるのかを考え、発表した。また、発表の際にタブレット端末を活用し、テレビ会議システム上で画面の共有をしたことで、発表児童がタブレット上に書き込んだ内容を交流校の児童たちも見ることができ、視覚的な理解を促すことができた。交流校の児童にとっては、自分たちのかくらしとは異なる部分を見つけ出し、山地のかくらしの

特色を同じ町内の生活から考えることができるため、身近なこととしてとらえることができた。

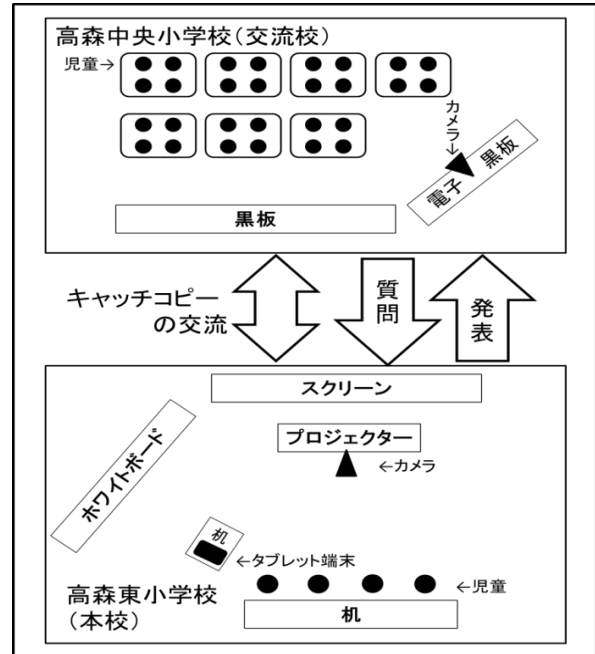


図1 遠隔授業の教室内の配置図

時	内容
1	土地利用図などの資料から、読み取ったことや疑問を整理し、学習問題を作る。
2	酪農と野菜づくりの結びつきについて、動画資料を使って調べる。
3	川上村の野菜づくりや野菜を届ける工夫について、動画資料を使って調べる
4	写真や動画資料から野菜づくり以外の特色について調べる。
5	山地のかくらしについて、タブレット端末で写真を確認しながら、紹介する内容を考える。
6 (本時)	テレビ会議システムを使って、山地のかくらしを紹介し、山地のかくらしの特色をキャッチコピーで表現する。

表1 単元の指導計画

## 3. 実践内容

### 小学校5年社会科「高い土地の暮らし(山地のかくらし)」

#### (1) 本時の目標

「地形条件と人々のかくらしや産業との関わりについて、調べたことを発表し、山地のかくらしの特色をとらえることができる。」

#### (2) 実践の様子

①本校（山地）の児童が自分たちのかくらしを紹介する  
本校の児童が自分たちのかくらしの様子について撮ってきた写真をもとに、それがどんな様子の写真なのかを交流校の児童に対し、タブレット端末のペン機能を利用

して、説明を行った。(写真1)

今回は「雨水をためるため池」や「山の斜面を利用した棚田」、「移動販売車」などを紹介したが、この時、交流校の児童は、本校の児童の発表を聞きながら、自分が感じた生活の違いや山地のくらしの特色についてメモを取るようにした。また、両校の教師は、提示された写真(プリントしたもの)と児童が使ったキーワードを黒板に提示するようにした。

#### ②山地のくらしについてキャッチコピーを考える

ゲストティーチャーから本校区の農業に携わってきた人々の苦労や環境の克服について話をしてもらい、黒板に写真やキーワードを提示しながら、本校区の農業について理解を深めた。ゲストティーチャーの話の後には、質問の時間を設けたが、交流校の児童が行った質問に対して、本校の児童が答える場面も見られた。

その後、児童たちの発表やG Tの話をもとに、山地のくらしや工夫について、キャッチコピーをグループで話し合いながら考えさせた。(写真2)

話し合いにおいて、交流校では、自分たちのくらしと比べて、すぐに水や土地利用に注目するグループが多かった。一方、本校の児童たちは何が特色なのかつかめない様子もあったので、黒板に提示している写真やキーワードを振り返らせ、考える手立てとした。

#### ③キャッチコピーの発表と本時の学習の振り返り

班ごとに考えたキャッチコピーを両校で出し合い、山地のくらしについて学んだことを振り返り、山地のくらしの特色についてまとめていった。(写真3)

本校の児童たちは、「不便さを補うくらし」や「自然の水を利用したくらし」など自分たちのくらしを見つめ直し、今まで学習した他地域と比べながら、山地のくらしの特色をとらえることができた。交流校の児童達も、「(湧き水や雨水などを利用した)水を大切にすくらしをしている」、「(山の斜面を利用した棚田など)自然を生かしたくらしをしている」などと自分たちの生活と比較しながら、特色をとらえることができた。

## 4. 成果

自分たちのくらしの様子を紹介できるということで、本校の児童たちはとても意欲的に学習の準備を行った。「自分が伝えたいことは何か」、「上手に伝えるためにはどんな表現をすればいいのか」など相談しながらしっかりと準備する様子が見られた。当日の交流でも相手に伝わるようにはっきりとしゃべったり、タブレットのペン機能を使い、注目して欲しい箇所に印を付けたりするなど相手意識を持った発表が見られた。

一方、交流校の児童も同じ町内の山間部の人たちがどんなくらしをしているのかをしっかりと学び、同じ町内でも生活環境が違うことに気づいた様子が見られた。

## 5. 今後に向けて(学習のつながり)

中学校になると2年地理で過疎地域の学習を行う。交流校も過疎化が進んでいるが、それ以上に進んでいるのが、本校区である。この単元でも、テレビ会議を利用した学習を進めることで、交流校では見えてこないさまざまな課題を本校の生徒たちは現実の課題として考えることができる。そのようなさまざまな課題に対し、本校の生徒たちと交流校の生徒たちが一体となって町の活性化のためのアイデアを出し合うことは非常に有意

義だと考える。

また、中学3年の総合的な学習の時間では、地域活性化について子ども議会で提案し、地域のことを考える学習を行っていく。この時にも、それぞれの地域の課題に対して、考えた活性化の案について説得力のある発表にするために、どんな改善をしていけばいいのかをテレビ会議システムを通して互いに意見を出し合い、議論しながら深めていくことができる。

今回の学習は、それにつながる学習である。同じ町内のことについて、お互いが知り合い、理解しあっていくことで、将来、より広い視野で町のことを議論していくことができると考える。今後も、地域の違いを意識させる授業を継続的に行っていきたい。



写真1 機器を使用した発表の様子



写真2 グループでキャッチフレーズを考える様子



写真3 両校の代表が発表する様子